公益財団法人 埼玉県産業振興公社

令和5年度事業継続力強化計画

業種別モデル：製造業－輸送用機械器具製造業

（自動車・トラック等の部品製造業）

本資料は、中小企業庁の「事業継続力強化計画策定の手引き」（以下、「手引き」と云う）を基に、中小企業・小規模事業者の皆様の同計画策定の一助となるよう、業種別の策定記載例を示したものです。

「手引き」と合わせて、事業継続強化計画を作成する際の参考にしてください。

（参考）中小企業庁「事業継続力強化計画策定の手引き」　　　　　 <https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/antei/bousai/download/keizokuryoku/tebiki_tandoku.pdf>



なお、本資料についてご質問やコメントなどがありましたら、こちらにご連絡をお願いいたします。

【公益財団法人　埼玉県産業振興公社　　経営支援部経営支援グループ】

電話：　048-647-4085

E-mail：　[desk@saitama-j.or.jp](mailto:desk@saitama-j.or.jp)

HP：　<https://www.saitama-j.or.jp>

**様式の記入例（製造業－輸送用機械器具製造業）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 申請先 | 関東経済産業局長　　　殿 | | |
| 住所 | **必須** | 〒 | ○○○－○○○○ | |
| 都道府県 | 埼玉県 | |
| 市区町村 | ○○市 | |
| 字・番地等 | ○○○ | |
| マンション名等 |  | |
| 事業者の  氏名又は名称 | **必須** | 株式会社○○○○ | | |
| 代表者の役職 | **必須** | 代表取締役 | | |
| 代表者の氏名 | **必須** | ○○　○○ | | |

1. 本社登記されている住所を入力してください。
2. 省略等はせず、正式名称を入力してください。
3. 役職名は必ず記載下さい（未記載はエラーとなります）。なお、個人事業主等で役職名がない場合は「代表」と入力してください。
4. 氏名の間には、全角スペースを1文字分入れてください。　＜記入例＞　継続　太郎

**１. 名称等**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 申請種別 | |  | |
| 事業者の氏名又は名称 | **必須** | 株式会社○○○○ | |
| 事業者の氏名又は名称  （フリガナ） | **必須** | カブシキカイシャ　○○○○○○ | |
| 代表者の役職 | **必須** | 代表取締役 | |
| 代表者の氏名 | **必須** | ○○　○○ | |
| 資本金又は出資の額 | **必須** | 〇〇〇〇〇〇〇円 | |
| 常時使用する従業員の数 | **必須** | ○○名 | |
| 業種 | **必須** | 大分類 | 製造業 |
| 中分類 | 輸送用機械器具製造業 |
| 設立年月日 | **必須** | ○○○○年○○月○○日 | |
| 法人番号 | **必須** |  | |

1. 事業者の氏名又は名称をカタカナ(※)で入力してください。　「カブシキガイシャ」「ユウゲンガイシャ」なども漏れなく記載してください。　事業者の氏名又は名称にカタカナもしくはアルファベット等が使用されている場合においても、 フリガナを入力してください。　※入力可能文字；　全角カタカナ、全角長音、全角スペース、「・」、「’」、「，」、「－」、「．」
2. 役職名は必ず記載下さい（未記載はエラーとなります）。　なお、個人事業主等で役職名がない場合は「代表」と入力してください。
3. 業種は日本標準産業分類の中分類を入力してください。　日本標準産業分類コード：　　<https://www.e-stat.go.jp/classifications/terms/10>　判断に迷われる際は、最寄りの経済産業局等にお問い合わせください。

**２. 事業継続力強化の目標**

**（１）　自社の事業活動の概要**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自社の事業活動の  概要 | **必須** | 当社は輸送用機器部品の製造を行っており、最終製品で自動車・トラックなどの重要システムを構成する重要部品として活用されています。  当社製品の特徴は、基本的にプレス機械を利用して大量生産を得意としており、顧客企業からは品質が高く安定性があると評価を頂いています。  なお、今までは自動車部品が中心であったが、2019年から既存のノウハウを生かして工業用製品など他分野への展開を試みています。  当社が罹災し業務が停止すると、自動車・トラックなどの重要部品の供給が停止し、サプライチェーンに影響が生じます。  また、当社の従業員の多くは○○市内から通勤しており、地元からの雇用に積極的に取り組んでおり、当社が自然災害などで休業すると、従業員の生活安定にも影響を与えます。  **本社とは別の所在地に工場・倉庫がある場合は、本欄の末にその所在地・常勤従業員数と明記します。　以下はその事例です。**  **【本社】　埼玉県○○市○○○**  **（常勤者数） ○○名**  **【□□工場】　埼玉県□□市□□**  **（常勤者数） □□名** |

1. 自社がどのような事業を営んでいるのかを、わかりやすく簡潔に記入してください。
2. 業種等に加え、自らの事業活動が担う役割（サプライチェーンで重要な部品を卸している、地域の経済・雇用を支えている等）を検討したうえで記載してください。

**（２）　事業継続力強化に取り組む目的**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 事業継続力強化に  取り組む目的 | **必須** | 当社は以下の目的のために事業継続力強化に取り組みます。   1. 災害発生時においては何よりも人命を最優先とし、従業員やその家族、関係者の安全を確保すること 2. 地域社会の安全及び経済活動に貢献すること 3. 輸送用機器製品のサプライヤとして、災害発生時も品質の優位性、納期の厳格性、と環境に配慮した製造工程を維持し、お客様への供給責任を果たすこと |

1. 自社が担う役割を踏まえつつ、下記の観点について自社の理念等と照らし合わせて考えてください。
2. 「事業継続力強化計画作成指針第１－ロ」 の考えに基づき、自社が被災した場合のサプライチェーンや地域経済への影響度や、従業員に対する会社の姿勢について、可能な限り具体的に記載してください。

* 従業員やその家族に対する責務
* 自社の企業理念や経営方針
* 顧客・取引先や地域経済に対する影響
* 事業継続力強化に当たっての理念や基本的な方針

**（３）　事業活動に影響を与える自然災害等の想定**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 事業活動に影響を与える自然災害等の想定 | **必須** | 当社について、○○市および埼玉県のハザードマップは次のような自然災害の危険性があるとしています。   1. 今後３０年以内に震度６弱以上の地震が発生する確率は ５０％以上（最大震度は６強）だが、液状化の可能性は低い 2. 水災：　対象河川は□□川で、最大浸水深：　０．５～３．０ｍ未満、工場敷地は、道路面から１ｍ程度高くなっている 3. 土砂災害：　可能性はない   **本社とは別の拠点（第二工場・倉庫など）がある場合は、その拠点についても各自治体のハザードマップなどで確認し、それぞれの危険性を記入します。** |

**ハザードマップの入手方法**

* 地域の自治体HP
* 国土交通省ハザードマップポータルサイト
* J-SHIS（地震ハザードステーション）

**（４）　自然災害等の発生が事業活動に与える影響**

想定される自然災害等が、どのような影響を及ぼすかを５つの項目（人、モノ、金、情報、その他）から検討します。

|  |  |
| --- | --- |
| 自然災害等の発生が  事業活動に与える影響 | **（想定する自然災害等） 　必須**  想定する自然災害のうち、事業活動に与える影響が最も大きいものは、最大震度６強の地震で、次が最大浸水深３．０ｍ未満の水災です。  **埼玉県の場合は、「地震のみ」の事例も少なくありません。** |
| **（人員に関する影響）　必須**  【地震】   1. 営業時間中に地震が発生した場合は、事務棚やキャビネットなどからの落下物で負傷する可能性があります。 2. 工場では、資材棚からの落下物により負傷する可能性があります。 3. 工場で使用中の溶接機により火傷する可能性があります。 4. 工場では、運搬中の資材で挟まれて負傷する可能性があります。   【水災】   1. 操業中に水災が発生した場合は、従業員及び関係者は2階の事務所に避難することになりますが、その際に慌てると負傷者が発生する可能性があります。 |
| **（建物・設備に関する影響）　必須**  【地震】   1. 工場（古い建物は築３５年、新しい建物は築１５年）の一部屋根が破損する可能性があります。 2. 停電対策としては、携帯発電機（１００Ｖ、２０Ａ、継続時間は約８時間）があるが、容量は不足している。 3. 古い設備で、修理用の部品をメーカーが作っておらず、地震で大破した場合は、修理が困難なものがある。これに代わる装置がないため、事業縮小につながる恐れがある。 4. 上下水道が使えなくなる可能性があります。   【水災】   1. ３ｍの浸水があると、電力キュービクルに浸水する可能性があります。 2. 工場内の機械設備は一部が水没する可能性があります。 3. 水災により、機械設備の一部は再調達になる可能性があります。 |
| 災害等の発生が  事業活動に与える影響 | **（資金繰りに関する影響）**　**必須**  資金繰りについては、設備の稼働停止や営業停止によって営業収入が得られないことで、運転資金がひっ迫するおそれ。建物・設備に被害が生ずる場合にあっては、これらの復旧費用が必要となります。  これら被害が事業活動に与える影響として、円滑な資金調達ができなければ、運転資金が枯渇することや復旧費用を捻出できないことが想定されます。 |
| **（情報に関する影響）**　**必須**  事務所内にあるＰＣ（顧客情報、財務資料、関係図面など）が地震で破損すればクラウド化してあるデータ以外（具体的には、一部の契約書及び個人用データ類）は喪失する恐れがあります。  なお、ＰＣは２階にありますので浸水の可能性はありません。 |
| **（その他の影響）**   1. 従業員の通勤が困難になります。 2. 地震や水災の被害程度によりますが、納期が遅れる可能性があります。 |

1. 前項目で想定した自然災害等のうち、最も大きな被害が想定される自然災害を対象として、事業活動に与える影響を想定します。
2. 「事象リスト」 と、 「脆弱性リスト」 を参考にし、自社に当てはめて事業活動に与える影響を考えてみましょう。
3. また、自社だけではなく取引先の被災やインフラなどの影響を検討することも重要です。

**３. 事業継続力強化の内容**

**（１）　自然災害等が発生した場合における対応手順**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **項目** | | **初動対応の内容** | **発災後の対応時期** | **事前対策の内容** |
| 1 | 人命の安全確保 | **必須**  従業員の避難方法 | 発災直後 | 地震の場合は、敷地に隣接する空きスペース（約５００坪）に避難し、揺れが収まるのを待ち、揺れが大きい場合は、地震時の指定避難所である○○市立○○小学校（徒歩約１０分）に避難します。  水災の場合は早めの帰宅ですが、早めの帰宅が難しい場合は２階の事務所に避難します。  指定避難所までの避難経路の周知・確認を図ります。 |
| **必須**  従業員の安否確認 | 発災後１時間以内 | 従業員の連絡網の整備  （ＬＩＮＥ ＷＯＲＫＳ、携帯電話番号） |
| 生産設備の緊急停止方法 | 発災後１時間以内 | 発災直後及び緊急時における設備の緊急停止手順の周知・確認 |
| 2 | 非常時の緊急時体制の構築 | **必須**  代表取締役を対策本部長とした、災害対策本部の立ち上げ | 発災後  １２時間以内 | 設置基準の策定（震度５弱以上、水災は注意報が発令された場合）  災害対策本部の運営方針の整備  代表取締役不在時（代行者：取締役など）の対応方法 |
| 3 | 被害状況の把握  被害情報の共有 | **必須**  被災状況や、業務活動への影響の有無の確認  当該情報の第一報を顧客及び取引先への報告 | その他  発災後２４時間以内 | 被害情報の確認手順の整理（カメラ撮影）  被害情報及び復旧の見通しに関する関係者への報告方法（ＬＩＮＥ・メール配信と電話連絡） |
| 4 | その他の取り組み | 事業再開手順 | その他  発災後７２時間以内 | 資材や設備の修理・廃棄・再調達の判断方法  現場の整理、清掃方法  工場の機器類などの再稼働手順 |

**（２）　事業継続力強化に資する対策及び取組**

各経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）について、A～Dに事前対策における「現在の取組」と、「今後の計画」の取組案を記入してください。

その際、各経営資源（Aヒト、Bモノ、Cカネ、D情報）において、自然災害等の影響がないものについては記載する必要はなく、自社にとって、事業継続上どのような対策を講じることが特に有効であるか、という観点で検討してください。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **項目** | | **現在の取組** | **今後の計画** |
| A | 自然災害等が発生した場合における人員体制の整備 | 地震及び水災発生時の避難場所の確認、避難訓練 | 地震発生時の場合：初期消火訓練、対策本部の設置訓練を加える。  水災の場合は、注意報・警報が出た場合の対策本部の対応訓練 |
| B | 事業継続力強化に資する設備、機器及び装置の導入  ※税制優遇を希望する場合、この項目は入力必須です。 | 特になし | 停電の発生に備えて、自家発電設備の追加導入を検討する。 |
| C | 事業活動を継続するための資金の調達手段の確保 | 現在、火災保険（地震特約付き）に加入している。保険の対象範囲は、建物、設備等となっている。  水災保険には加入していない、また休業が長期（６カ月以上）にわたる場合は、付保していない休業補償額が大きくなり、復旧費用や運転資金などの資金調達を圧迫することが想定される。 | 現在加入している保険について、本社の水災保険と休業補償保険を追加することを検討する。  自然災害が発生した際に緊急融資が受けられるよう、地元の金融機関（銀行）の担当者とコミュニケーションを取る。 |
| D | 事業活動を継続するための重要情報の保護 | 現在、一部のデータはクラウド化されている。 | 更にクラウド化を進める。 |

**（３）事業継続力強化設備等の種類**

**注意点**

* 税制優遇を希望する場合は入力必須です。
* 税制措置の適用を受ける場合、税制優遇の対象は中小企業者等（資本金１億円以下等）となります。
* 資本金が１億円より大きい場合は、「税制優遇を活用する」のチェックボックスは非活性となり押下できません。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **確認項目** | **チェック欄** | **記載方法** |
| 税制優遇を活用する |  | 記載方法は「事業継続力強化計画策定の手引き」を参照 |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | **（２）の**  **項目** | **取得年月** | **設備等の名称** | **設備の型式** | **所在地** |
| 1 |  |  |  |  |  |
| 2 |  |  |  |  |  |
| 3 |  |  |  |  |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | **設備等の種類** | **単価（千円）** | **数量** | **金額（千円）** |
| 1 |  |  |  |  |
| 2 |  |  |  |  |
| 3 |  |  |  |  |

|  |  |
| --- | --- |
| **確認項目** | **チェック欄** |
| 上記設備は、建築基準法（昭和二十五年法律第二百一号）及び消防法（昭和二十三年法律第百八十六号）上設置が義務づけられた設備ではありません。 |  |
| 上記設備は、中古品及び所有権移転外リースによる貸付資産ではありません。 |  |
| 上記設備は、国又は地方公共団体の補助金等の交付を受けて取得等した設備ではありません。 |  |

**５. 事業継続力強化を実施するために必要な資金の額及びその調達方法**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **実施事項** | **使途・用途** | **資金調達方法** | **金額（千円）** |
| 事前対策 | 従業員・関係者への給与、社会保険料等の支払い　（２か月分） | 銀行融資 | ３０，０００ |
| 事前対策 | 自家発電設備の増設 | 自己資金 | ４，０００ |
| 事前対策 | 災害用ヘルメット・工具の追加購入  （年間） | 自己資金 | ６５０ |
| 事前対策 | クラウド化の推進  （年間） | 自己資金 | ６００ |

1. 計画に記載された事業継続力強化設備等の導入等、事業継続力強化に資する対策及び取組を確実に遂行するために必要な資金の額を検討したうえで、その調達方法を「資金調達方法」欄に記載してください。
2. 「何の目的で」、「どのような使い方をするのか」を「使途・用途」欄に簡潔に記載してください。
3. 「損害保険への加入」等を「資金調達方法」に記載する場合は、「金額」の欄には、加入に際して必要な保険料ではなく、事業の継続に必要な金額（＝補償対象となる事由が発生した場合に自社に支払われる保険金の金額）を記載してください。

**３. 事業継続力強化の内容**

**（４）事業継続力強化の実施に協力する者の名称及び住所 並びにその代表者の氏名 並びにその協力の内容**

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | A株式会社 |
| 住所 | ○○県○○市○○ |
| 代表者の氏名 | ○○　○○ |
| 協力の内容 | 自然災害に備えた事前対策の取組強化について、技術的な助言を受けるほか、自社の生産設備に支障が生じた場合、同社の生産設備を借りて、代替生産を行うことについて、検討・決定する。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | B銀行　○○支店 |
| 住所 | 埼玉県○○市○○ |
| 代表者の氏名 | （支店長）　○○　○○ |
| 協力の内容 | 被災時に、緊急融資を受けられる契約を結んでおくとともに、埼玉県信用保証協会のセーフティネット保証を活用することについて、事前に協議を行う。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | ○○市商工会 |
| 住所 | 埼玉県○○市○○ |
| 代表者の氏名 | （会長）　○○　○○ |
| 協力の内容 | 地震：　被災後に行政情報（支援情報）を提供して頂ける。  水災：　水害に対する事業継続の強化に関する指導を依頼する。 |

**（５）平時の推進体制の整備、訓練及び教育の実施その他の事業継続力強化の実効性を確保するための取組**

事業継続力強化に当たっては、単に計画を策定するだけではなく、自然災害等が発生した場合の実効性も求められます。災害時に使えるような計画にするための取組を検討しましょう。

* 実効性の確保には、経営層の関与が必要不可欠です。必ず、経営層のコミットメントについて記載してください。
* 年１回以上の訓練と計画の見直しについても必ず記載してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **経営層の下推進** | **教育・訓練の実施** | **見直しを計画** |
| **必須** | **必須** | **必須** |
| 計画の推進及び訓練・教育については、代表取締役の指揮の下に実施する。  毎年３月と９月に○○市で発生する自然災害について代表取締役と従業員で話し合い、対策を検討する。 | 安否確認訓練を年２回（３月と９月に）実施する。  地震及び水災対策として毎年３月と９月に指定避難所までの避難訓練を全従業員と一緒に実施する。  合わせて、災害用備蓄品の点検と整備を行う。 | 実態に則した計画となるように、年１回以上計画の見直しを実行する。 |

1. 実効性を確保するために、平時から行う取組を検討します。
2. 以下の3点全てについて、自社の取組を検討し、必ず記載してください。

* 平時の取組推進について、経営層の指揮の下実施する体制を整える。
* 年１回以上、訓練や教育を実施する体制を整える。
* 年１回以上、事業継続に向けた取組内容の見直しを計画する。

1. 平時の体制を活用することも有効です。
   * 例えば、製造工程の安全操業のための工程安全管理委員会を設置し、月１回見直会議を図っている場合、当該会議に災害対策を追加するなど。

**４　実施時期**

実施期間について、3年以内の取組としてください。

期間の開始は本申請書の申請日以降の年月からとしてください。

○○○○年○○月 ～ ○○○○年○○月

**年月を記入してください**

**６　その他**

* 1. **関係法令の遵守（必須）**

|  |  |
| --- | --- |
| 確認項目 | チェック欄 |
| 事業継続力強化の実施にあたり、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和二十二年法律第五十四号）、下請代金支払遅延等防止法（昭和三十一年法律第百二十号）、下請中小企業振興法（昭和四十五年法律第百四十五号）その他関係法令に抵触する内容は含みません。 | ✓ |

**チェックしてください**

**（２）　その他事業継続力強化に資する取組（任意）**

|  |  |
| --- | --- |
| 確認項目 | チェック欄 |
| レジリエンス認証制度（※１）に基づく認証を取得しています。 |  |
| ISO 22301認証（※２）を取得しています。 |  |
| 中小企業BCP策定運用指針に基づきBCPを策定しています。 |  |

（※１）国土強靱化に貢献する団体を認証する制度

（※２）事業継続マネジメントシステム（BCMS）の国際規格